

2001(平成13)年4月12日発行 編集・発行 図書館学教育部会

## 新世纪の図書館学教育と図書館員養成に向けて

図書館学教育部会長 高山 正也 (慶應義塾大学)

いよいよ2001年度、すなわち新世纪の学年が始まりました。部会員の皆様方も新世纪にふさわしい図書館学教育や図書館員養成に向けて、いろいろな計画や試みをお持ちのことと思います。図書館学教育を取り巻く環境も日々変化し、厳しさを増してくる状況の中では、否応なしに新たな試みを実行に移さざるを得ません。

大学自身が如何に学生数を確保し、経営を続けられるかに腐心している状況にあっては、図書館学、司書課程などに如何に受講者を確保するかはより深刻になっています。受講者が減少したり、いなくなれば、大学にとって図書館学の講座は存続させる理由は何もなく、即座に閉鎖の対象になり、そうなれば図書館学担当の教員はすぐさま解雇され、生活の基盤を失って路頭に迷うことになります。このような事態を招かないための方策はただ一つ、魅力のある図書館学、司書課程になるしかありません。

魅力のある図書館学、司書課程とは何でしょうか。今まででは魅力はなかったのでしょうか。正直言って、今までの図書館学や司書課程は担当者には大変魅力的な存在ではあっても、受講者や課程の設置者(大学)にとってはどこまでの魅力があったかは疑問があります。これからはその“つけ”を払うための努力が求められるでしょう。すなわち、如何にして受講者や設置者にとって魅力的な図書館学にするかであって、そのためには担当者にはかなりの努力と工夫と忍耐が求められるでしょう。

この努力と工夫と忍耐とは何に向けて行われるべきかといえば、それは一つには授業内容の充実と高度化であり、もう一つは受講した結果得られる司書資格の有効化であります。

授業内容の充実と高度化につきましては、当図書館学教育部会は過去10年近くにもわたって、カリキュラム問題、科目毎の教授内容の研究、そして昨年度からはファカルティー・デベロップメント(FD)と、部会員各位のお役に立つべく一連の活動を展開してきたことはご高承の通りであります。もう一つの司書資格の有効化とは何でしょうか。これは現状の司書資格が、図書館の現場からあまり価値を認められない、形骸化した資格になりつつあるとの認識が広がっている状況を改めようというものです。すなわち、日本の図書館を真に活性化するのに役立つ図書館のための資格制度を再整備し、その中に司書資格を位置づけることが必要でしょうし、そうすることで、司書資格を単なる紙の上の資格から、資格を持つことが有意義であると実感してもらえる資格に変えることができると思われます。抽象的な表現しか現段階ではできませんが、これは、図書館学教育部会の内部だけの対応ではいかんともしがたい問題なのでご容赦下さい。このために、今年度からこのための基礎的な状況把握の一環として、司書資格取得者の就職・進路の調査を図書館学教育部会として行う予定であります。

このような大きな問題への取り組みについても、部会員各位の日々の地道で良心的な教育活動が何より大事です。皆様のご奮闘を期待し、部会執行部へのご支援・ご協力をお願いいたします。



## 役員選挙結果

2001年3月31日

部会員各位

日本図書館協会図書館学教育部会  
第22期選挙管理委員会  
委員長 戸田 慎一  
池谷のぞみ  
斎藤 泰則  
福田 求  
若松 昭子

第22期(2001・2002年度)の役員(部会長、幹事および会計監査)の選挙結果をご報告いたします。

### 【選挙実施日程】

2001年2月10日	選挙公示(部会報発行日付)	選挙人 276名(選挙成立条件 93名以上の投票)
2001年2月13日	投票用紙発送	郵送 276通
2001年2月28日	投票締切り	回収 114通
2001年3月3日	開票作業	
2001年3月9日	役員就任承諾書／辞退届の提出依頼	
2001年3月21日	選挙結果報告書を部会長へ提出	

### 【開票結果】

(上位得票者のみ ○:就任)

部会長(1名)		幹事(5名)	
○	高山 正也	65票	○ 阪田 蓉子 29票
	渡辺 信一	7票	○ 岸田 和明 27票
会計監査(2名)		○ 宮部 賴子 21票	
○	前園 主計	13票	柴田 正美 20票 辞退
○	宮内美智子	11票	渡辺 信一 20票 辞退
	渡辺 信一	8票	○ 渡部 満彦 16票
○	阪田 蓉子	8票(幹事)	緑川 信之 15票 退会
		○ 逸村 裕 14票	
		五十嵐一郎 13票	
		野末俊比古 13票	

\* 得票数が同数の時は、「図書館学教育部会役員選出要綱」第10条2項に従って順位を決めた。

\* \* 以上の選挙結果に加え、部会長指名幹事として、岡田靖(鶴見大学)、田中岳文(東海大学)、大谷康晴(青山女子短大)の三氏が指名され、第22期図書館学教育部会の役員が確定した。

**日本図書館協会 図書館学教育部会 2000年度 第2回 研究集会**  
**図書館学教育におけるファカルティディベロPMENT(2)**  
**—資料組織技術の最新動向—**

**日時** 2001年3月5日(月)

**会場** 国立情報学研究所

**参加者** 33名(定員30名)

**プログラム**

**午前の部**

9:30～ 9:35 開会挨拶(高山正也部会長)

9:35～10:20 国立情報学研究所(NII)による演習

(1)NACSIS-CAT、ILL、IR、ELS 各システムの概要説明

(2)CATを中心としたコンピュータ演習

(昼休み 12:30～13:30)

**午後の部:講演・事例報告**

13:30～14:15 三輪眞木子氏((株)エポックリサーチ)

「米国図書館情報学教育の最新事情」

14:15～15:00 古川肇氏(中央大学図書館)

「NCRの最新動向—国際的動向との関連における—」  
(休憩)

15:10～15:55 柴田正美氏(三重大学)

「BSHの最新動向」

15:55～16:25 渡部満彦氏(東横学園女子短期大学)

「資料組織演習の事例報告」

16:25～16:50 質疑応答

16:50～16:55 閉会の挨拶:高山正也部会長

**配布資料**

- 1) 国立情報学研究所要覧 2) 国立情報学研究所サービス概要 3) 国立情報学研究所情報検索サービス(NACSIS-IR)サービス案内 4) 国立情報学研究所電子図書館サービス(NACSIS-ELS)サービス案内 5) 目録所在情報サービス関連パンフレット 6) 目録所在情報サービス利用マニュアル入門編 7) 目録システム講習会テキスト図書編(抜粋) 8) 研究集会講演・事例報告資料

**講演・事例報告概要**

**(1)米国図書館情報学教育の最新事情**

三輪 真木子氏 Ph.D.((株)エポックリサーチ 情報コンサルタント))

(配布資料:全9ページ)

・現在はインターネットが巨大な図書館であり、それにどのよ

うに対応していくかが問題。ITはInformation Technologyというよりも、Internet Technologyと理解した方が図書館には適切か。ライブラリアンの職域が拡大するチャンスともとらえることができる。

・ALAによる図書館情報学修士プログラム認定に関して、1992年の図書館情報学修士プログラム認定基準の使命・目標・目的・強調点および同基準におけるカリキュラム要件、認定手続き等を紹介。

・アメリカのライブラリースクールランキング(トップ5)およびライブラリースクール情報システムランキング(トップ6)の紹介。

・シラキュース大学情報学科(Bachelor of Science in Information Management, Master of Library Science, Master of Science in Information Resource Management, Master of Science in Telecommunication and Network Management, Ph.D. in information Transfer)プログラム紹介。

・MLSでは情報技術と情報分析技能が重視されている。MLSの卒業生の31%は学校図書館関係、21%は公共図書館、17%が大学図書館などに就職。博士プログラム(Ph.D. in Information Transfer)では研究者育成、ユーザの視点に立った研究を重視。1993年にシラキュース大学情報学科遠隔教育プログラムが開始。

・最近注目される新たな職業は、ウェブマスター、デジタル・レファレンス・サービス仲介者、電子ライブラリー設計・開発・運用、企業情報部門のマネージャー、情報部門取締役CIOなど。

・最後にシラキュース大学情報学科併設の研究・開発機関および今回のテーマに関連するウェブ情報源を紹介。

(三輪氏所用で退席のため、質問受付)

**Q:**具体的な教育方法あるいは教材などについて教えていただきたい。

**A:**手法は科目により色々だが、いわゆる対面式の授業はほとんどなく、リーディングアサイメントを基にディスカッションを行うものが多い。グループで課題研究やディスカッション

ンを行い、発表する。ビジネススクールからの教員は教材そのものがケーススタディのことが多く、ディスカッションも評価される。

## (2) NCR の最新動向-国際的動向との関連における-

古川 肇氏（中央大学図書館 JLA 目録委員会委員）  
(配布資料:全5ページ)

・目録の国際的動向に関してはこれまで「無風状態」は存在しなかった。電子資料の存在以前からの問題である。

### I. 「目録への新しい照射」

・AACR の分析と問題点の摘出に関して複数の区分原理による、資料種別の混乱などを指摘。また、刊行形式による資料種別(単行資料と逐次刊行物)への問題提起に関して、量的増加を伴わずに、内容が更新される資料の存在に着目(例:データベース)。単行資料と逐次刊行物という区分はやや大ざっぱに過ぎるという認識がでてきたとして、continuing resources(継続資料(仮訳))=serials(逐次刊行物)プラス integrating resources(更新資料(仮訳))を提示。例:加除式資料、Web 資料。

### II. AACR の主要な改訂

・総則の0. 24(現行本文抄「…要するに記述の出発点は手元にある資料の物理的形態であって、…」)に関して、改定案として a)実現形を基盤とする(従来・現行)案と、b)表現形を基盤とする案を紹介・説明。  
・第12章(逐次刊行物)に関して、更新資料に関する規定を挿入して再構成。逐次刊行物は個別記入方式(現行)、更新資料は変更がある度に同一記入の内容を更新。  
・構成に関して、序章の新設、第1部の章立てを資料種別からエリア別へ改編、「第Ⅲ部 関係」の新設、付録に新記録の作成を要する顕著な変更と、要しない軽微な変更に関する規定を新設。

### III. NCR の改訂

・第9章に関して、章名、ローカルアクセスとリモートアクセスの区別、情報源、版表示、電子的内容、出版・頒布等に関する事項、形態に関する事項、注記等に触れ、残された問題として、記述対象が複数の章に関連する場合の、適用する章の明記および版表示の範囲の問題に触れ、NCR の全面的改訂の予兆を示した。  
・第13章に関しては2000年9月より AACR 第12章改訂案を参考に原案を起草し検討開始。  
・目録委員会は第9章の作業終了後、13章(逐次刊行物)

の見直しを予定。その延長に本格的な目録規則の改訂作業を考慮?

### IV. NCR の改訂の将来に関して(個人的見解)

・改訂の他の側面として、図書のページ付けおよび用語の吟味等の内在的批判がある。  
・改訂の目標は目録の内部構造の強化による機能の向上。  
1)パリ原則第2機能(集中 collocation 機能)の十全な実現  
2)書誌的記録間の関係付け(リンク)の実現。

## (3) BSH の新動向

柴田正美氏（三重大学 日本図書館協会件名標目委員会委員長）

(配布資料:全14ページ)

### Part I BSH3 から BSH4 へ

・両版の主な相違点として、1)採択件名標目の増加、2)表現形式の変更、3)一般細目への追加、4)分野ごとの共通細目の整備、5)言語細目の増加、6)地名のもとの主題細目への追加、7)地理区分指定の廃止、8)細目と区分の名称を統合、9)限定語の形式修正、10)連結参照の階層構造に基づく整理、11)階層構造標目表の編成、12)分類記号の NDC9版への修正、13)排列方式の変更、14)標目の変更・削除一覧、15)機械可読版(コンピュータ・ファイル)の作成を紹介。

・配布資料を基に3版、4版における「法律」、「労働」の扱い、および4版での病気の扱い、「化学・科学・雅楽」の混在などについて説明。

・司書養成教育において配慮してほしい点に関して、新件名採用に関しては、タイトル中の言葉がテーマを表しているというイメージをあたえる社会の風潮は問題であるとして、資料組織法は資料をいかに使いこなしていくかということであり、新設件名の位置づけを学生に理解させることの重要性を指摘。

### Part II Machine Readable Data File :Computer File

・配布資料を基に内部フォーマットの例示、MARC フォーマット、内部フォーマットと MARC フォーマットの対象／変換について説明。

### Part III 今後の BSH

・新設件名候補等の検討システムがきちんとできていない。現実の図書館で作業する人々がどう考えるかのフィードバックができていなかった。  
・CF と個別図書館の対応に関しては、BSH4版がでてから1

年経ったが、すでに1200件ほどの新設件名が上がっている。早くコンピュータ・ファイルを作りたい。CF 作りは件名標目委員会と個別図書館の間の垣根を取り払うことが狙いでいる。

・最後に、各図書館の業務システムと我々のシステムとの間での問題点を明らかにして、利用者サイドからの使いやすい件名標目表を作り上げていきたい。

#### (4) 資料組織演習の事例報告

渡部満彦氏(東横学園女子短期大学)

(配布資料:全23ページ)

・「ウインドウズで学ぶ資料組織概説・記述目録編」(著作権: 渡部満彦 出版社:樹村房)の画像配布プリントとプロジェクト画面を提示。

・「簡易入力画面(記述ブロック)」、「簡易入力の J-BISC 形式表示(書名標目、著者標目)」、「NDL Web Opac からの主題標目流用」、「ヒット、件名、分類の流用」、「J-BISC 形式入力画面から編集」、「簡略表示」、「ISBD 区切り記号での表示」、「カード形式」、「続きを読むカード」、「カード形式:著者標目」、「カード形式:件名標目」、「J-BISC 形式による入力(既存ファイルの読み込み)」、「ヘルプコマンドからタグ一覧を表示」、「ISBN タグの入力」、「新規レコード記述ブロックの入力」、「カード形式表示」、「フリーターム論理積検索(簡略表示)」、「MARC 形式」、「全ファイルの表示」、「遊び(音楽演奏)」、などを基に、東横学園女子短期大学における資料組織演習授業の具体的な内容が紹介された。

#### 質疑応答

Q: J-BISC と Japan/Marc は必ずしも同じものではないが、授業では Japan/Marc についての説明で外形式も説明するのか。

A: 使用しているテキストに入っているので、説明している。US/Marc のところでは外形式にも触れざるを得ない。

Q: 渡部氏の作成されたテキストの一つ前のものを使用しているが、新しいものはいつ出版されるのか。

A: 出版者に FD の残部が残っているので、FD が基本だが出版社に言えば CD-ROMと一緒に入手できるかと思う。

Q: 私のところでは、J-BISC を流用して学生にタグを付けさせるという使い方で、前のバージョンを使用している。

Q: 昨年の図書館大会で現場の方から、目録の教え方でメ

タデータもしくはマークフォーマットについても教えるべきとの指摘があったが、現場の方のお考えはどうか。

A: 答えにならないと思うが補足したい。メタデータ、たとえばダブリンコアなどは、典拠コントロールが無い。目録とメタデータとは全く別物と考えている。この点を解らせることが必要と考える。マークフォーマットという図書館の普遍的なものが XML に変わっていくだろうと考える。

Q: 配布資料にある司書試験問題で、用語説明の中のものが現場で果たしてどれ位必要とされているのか。たとえばメタデータ等々、教える内容はどこまでが標準なのかという問題がある。

Q': これは先生のところの問題か。

A: 海外青年協力隊のものである。

#### 閉会の辞(高山部会長)

- ・三輪氏には図書館情報学教育に関わる者にとって非常に示唆に富んだ発言をいただいた。
- ・古川氏には資料組織が図書館情報学の基礎になること、ややもすると電子資料に惑わされてしまうが、図書館情報学の基礎に立ち返ることが必要と教えていただいた。
- ・柴田氏には件名標目、言葉と概念の問題を教えていただいたが、これも重要な基礎である。
- ・渡部氏には非常に具体的で、新学期からすぐにも使えるような有用な情報をいただいた。
- ・今後も、教育部会としては皆様方の研究・教育に役立つものを考えていきたい。変化の中にあって図書館情報学教育をどのように考えて言ったらよいのかが課題である。

#### 研究集会参加者の声(アンケートより)

・アンケート回答数 18(構成:部会員12 非部会員5 無回答1)

Q1 今回の研究集会の全体的なテーマの設定はいかがでしたか

適切だった17 適切でなかった1

意見: 講演のテーマの配分もよかったです、新しい知識とあわせて、もっと教育の実践的な部分を多くすればより良いと感じた。

Q2 午前は演習形式、午後は講演形式というプログラムはいかがでしたか。

よかったです 17 よくなかった 1

意見: 午後から、もしくは午前 10 時ぐらいから始めてほしい

## その他の意見

- ・大変参考になりました。
- ・FD の参考になりました。
- ・NII の新しい動向がわかり大変よかったです。
- ・非常に参考になったが、逆に学生にどこまで教えればよいのか、迷うこともあるように思った。
- 演習は役立ったがバラエティが欲しかった。IR も含めた方がよかったですのではないかと思う。質問は講演の直後の方がよい。
- ・Faculty Development Program を是非継続していただきたい。どうもありがとうございました。
- ・時宜にかなったテーマで新しい知見が得られ、大変有益であった。パソコンに触れる機会もあり、いろいろ体験できてよかったです。ありがとうございました。
- ・教育実践の事例報告を今後ふやして下さい。学生による授業評価の結果をふまえて、学生が、図書館情報学を学ぶ上で、どこでつまずくのか、科学的に明らかになる教育実践が必要だと思います。
- ・初めて参加しました。内容もバランスよく充実したもので勉強になりました。継続調査を望みます。休み期間中であれば、2 日間の開催という形でも良いのではないかと思いました。
- ・午前の演習について、何をどう行うのか導入部分がいさか不明だったのは残念。
- ・内容が充実していた。それぞれ関心の高いものを取上げられていて、出席できてよかったです。
- ・演習を後半にもってくる、もしくは2-3時の中間にはさむというのはいかがでしょうか。分類、件名を統合した企画をご検討下さい。
- ・三輪先生のお話で「ランク」が気にかかった。前にも見たことがあるのですが、学生の単価をどのように把握するのか。新しい授業形態をどうレビューするのかなどが気にかかりました。
- ・午前の演習は以前学会でも同様のものを行ったと思いました。研究集会は来年度も今年度と同様に開催してください。
- ・IT 技術の急速な進展とともに、資料組織技術も敏速な対応が必要となります。それは図書館現場への対応でもあります。その意味では組織演習はオンライン情報に依拠する方向にあると思います。NACSIS-CAT や WebOPAC と直結した演習授業のモデルの標準化を願っております。
- ・NACSIS-CAT、ILL の演習は有意義だったが、大学のコンピュータ教室では使えない、見せられないシステムなので残念だった。渡部先生の教材や JLA の教材などでの演習ができるともっと直接的に役立つと思う。
- ・図書館史に関してこういう機会があればと思います。よい教材やユニークな実践の紹介は無理でしょうか。
- ・講義より(午前中)演習時間に Weight をおいてほしい。

(文責:宮部頼子幹事)

## 2000 年度図書館学教育部会幹事会議事一覧

### 第 1 回

日時:2000 年 4 月 8 日(土)17:00~19:30

場所:青山学院大学青山キャンパス総研ビル 7 階第 12 会議室

出席者:高山部会長、小田、岸田、阪田、野末、緑川、宮部、渡部

欠席者:逸村

#### 1. 報告事項

- (1)常務理事会報告
- (2)部会報第 55 号について
- (3)「日本の図書館情報学教育 2000」について

#### 2. 協議事項

- (1)部会総会について
- (2)5 月の研究集会について
- (3)全国図書館大会について
- (4)選挙管理委員会について

### 第 2 回

日時:2000 年 5 月 13 日(土)12:30~13:50

場所:東横学園短期大学図書館会議室

出席者:高山部会長、逸村、小田、岸田、阪田、野末、緑川、宮部、渡部

欠席者:なし

1. 報告事項
- (1) 常務理事会報告
  - (2) 部会報の発行
  - (3) 「日本の図書館情報学教育 2000」の発行について
  - (4) 研究集会について
2. 協議事項
- 本年度全国図書館大会(沖縄大会)について
- 第 3 回**
- 日時: 2000 年 7 月 22 日(土) 15:30~20:00
- 場所: 明治大学研究棟第 6 会議室
- 出席者: 高山部会長、小田、岸田、阪田、野末、緑川、渡部
- 欠席者: 逸村、宮部
1. 報告事項
- (1) 常務理事会報告
  - (2) 「日本の図書館情報学教育 2000」の発行について
  - (3) 日本図書館協会の研修準備委員会の状況について
  - (4) 部会報の発行について
  - (5) 「定款・諸規定」における図書館学教育部会規定の修正表示について
2. 協議事項
- (1) 全国図書館大会の準備状況について
  - (2) 研修講師の推薦について
  - (3) 「図書館年鑑」2001 年版の編集協力者について
  - (4) 幹事会の「回次」についての確認
  - (5) 2000 年度事業計画のうちの新規事業について
- 第 4 回**
- 日時: 2000 年 9 月 24 日(日) 14:00~17:00
- 場所: 青山学院大学青山キャンパス総研ビル 9 階第 16 会議室
- 出席者: 高山部会長、小田、岸田、阪田、野末、緑川、宮部、渡部
- 欠席者: 逸村
1. 報告事項
- (1) 常務理事会報告
  - (2) 選挙管理について
  - (3) 「日本の図書館情報学教育 2000」の発行について
  - (4) 日本図書館協会の研修委員会について
2. 協議事項
- (1) 全国大会(沖縄大会)の分科会について
- (2) 研究集会(本年度第 2 回目)について
- (3) 少子化・学生減少に対する図書館学教育(司書養成)の対応に関する調査について
  - (4) 「図書館学受講生の進路調査」の検討
- 第 5 回**
- 日時: 2000 年 12 月 1 日(金) 18:30~21:00
- 場所: 青山学院大学青山キャンパス総研ビル 9 階第 15 会議室
- 出席者: 高山部会長、逸村、小田、岸田、阪田、野末、緑川、宮部、渡部
- 欠席者: なし
1. 報告事項
- (1) 常務理事会報告
  - (2) 役員選挙準備状況
  - (3) 部会会計と部会員の状況
  - (4) 部会報編集状況
2. 協議事項
- (1) 研究集会(第 2 回)について
  - (2) 2001 年度事業計画
  - (3) 部会員の名簿管理の問題について
  - (4) 部会報への幹事会議事録の掲載について
  - (5) 「日本の図書館情報学教育 2000」による収入の取り扱いについて
- 第 6 回**
- 日時: 2001 年 1 月 23 日(火) 18:00~21:00
- 場所: 青山学院大学青山キャンパス総研ビル 9 階第 15 会議室
- 出席者: 高山部会長、小田、岸田、阪田、野末、緑川、宮部、渡部
- 欠席者: 逸村
1. 報告事項
- (1) 常務理事会報告
  - (2) 2001 年度全国図書館大会(岐阜)について
2. 協議事項
- (1) 研究集会について
  - (2) 教育部会役員選出について
  - (3) 部会報について
  - (4) 2001 年度総会の運営について

## 第7回

日 時:2001年3月5日(月)17:30~19:30

場 所:日本教育会館 2F KIZAN C ルーム

出席者:高山部会長、小田、岸田、阪田、野末、宮部、渡部

欠席者:逸村、岸田、緑川

### 1. 報告事項

(1) 役員選挙について

### 2. 協議事項

(1) 次期幹事会役員について

(2) 来年度研究集会(第1回)・部会総会について

出席者:高山部会長、小田、岸田、阪田、野末、緑川、宮部、

渡部

欠席者:逸村

### 1. 報告事項

(1) 常務理事会関連報告

### 2. 協議事項

(1) 役員選挙の結果について

(2) 2001年度研究集会について

(3) 2001年度総会について

(4) 2001年度事業計画について

(5) 2001年度幹事会の新しい体制について

## 第8回

(文責:岸田和明幹事)

日時:2001年3月31日(土)14:00~18:00

場所:慶應義塾大学三田キャンパス新研究棟研究会議室

### 編集後記

2年間にわたり部会報編集を担当させていただきましたが、次号からは「選手交代」とさせていただきます。年間3回～4回の部会報ですが、幾分たりとも部会員相互の情報交換・意見交換の場として活用できればと願っておりましたが、結果的にはなかなか難しいものでした。

特に研究集会は会場がほとんど東京に限られてしまったことや参加者の人数制限等々の関係で、地方在住の多くの部会員の方々には出席の機会が十分ではなかったのではないかと、申し訳なく思っております。それを埋め合わせる意味も込めて、部会報上でできるだけ当日の内容と雰囲気をお伝えしようと思ってはいたのですが、これもなかなか難しく、十分にはその目的を達することができなかつたと反省いたしております。

その意味からも、次回の研究集会と教育部会総会には是非とも多くの部会員の皆様に、直接会場にお越しいただければと願っております。皆様、奮ってご参加下さい！！本号にもそのご案内が同封されておりますが、5月12日(土)、日本図書館協会新会館で行われます。

なお、次回研究集会と部会総会に関して、以下の点を改めて確認させていただきたいと思います。

1. 会場は日本図書館協会です。
2. 教育部会総会は午後1時からの予定です。
3. 日本図書館協会全体の総会は、別途、5月25日午後1時から協会で行われます。
4. 部会総会および日本図書館協会全体総会の出欠に関しては、4月中に会費請求とともに、協会事務局から別途、出欠連絡・委任状のハガキが送付されます。
5. 部会総会出欠に関しては、上記のハガキを必ず部会総会前日必着(できれば4月中)で投函して下さい。ようお願いいたします。特に委任状は忘れずにお出し下さい。
6. 5月12日の研究集会参加申し込みは、直接、岸田担当幹事宛にお出し下さい。

以上、宜しくご協力のほど、お願い申し上げます。

次号からは阪田蓉子幹事が部会報担当となります。ご期待下さい。(宮部頼子)